

画面が明るく鮮明 75型の迫力に感動



黒板の高さとそろえて75型4K電子黒板を設置。偏西風の動きが一目瞭然

広島県北広島町で、新しい提示環境として4K対応プラビアを活用し始めた広島新庄中学・高等学校と北広島町教育委員会を取材した。4Kかつ大画面で伝わる情報量が圧倒的に増えたという。

広島新庄中学・高等学校

広島新庄中学・高等学校(荒木猛校長・広島県は、地元有志35名が出資して生まれた創立110年を迎える私立学校だ。同校では、今年度からカリキュラム編成を変更して社会探究コースを設置。最先端の環境でこれから求められる人材育成に取り組む)ことを方針に掲げている。

同校で今年度新しく設置した社会探究コースでは、社会に求められる新しい学びに積極的に取り組める人材育成を目標としている。本コースの立ち上げに携わった佐々木薫教諭は「新しい学びのために、最先端の環境を生徒に提供したいと考えた。本校では2014年度から17年度にかけて提示環境を全教室に整備済だが、さらにグレードアップした環境整備の1つとして75型4K電子黒板プラビアを活用している。カーテンを閉めなくても画面は明るく鮮明で、生徒に伝えられる情報量が圧倒的に増えた。視野が広く、教室前方からでも見ることが出来る。75型の迫力に生徒も感動していたと語る。今後、社会探究コースではデータを活用した学習やプログラミングほか今求められている学びに挑戦。地元の課題を高校生が解決できるような探究学習も予定している。

4Kかつ大画面で伝わる情報量が圧倒的に増えた

2K画像も鮮明に 4K映像に変換

社会科を担当している神尾哲範教諭は、同校に提示環境が整備されて以来、インターネット上のさまざまなコンテンツを教材に活用している。地理ではGoogle Earthのレイヤー機能を使って教材を作成。今年度から使い始めたプラビアについては「河原段丘や偏西風など2K画像がすべて4K解像度にアップスケールされ、発色も良く、細部が見やすいので情報量が増えた。画面が大きいので一目瞭然と伝えられると話す。リアルタイムで世界中に飛んでいる飛行機が分かるサイト(flightadar2)を提示すると、生徒は驚いて画面に注目する」と。

現在、1人1台でChromebookを活用して生徒画面を大型提示装置に自由に提示できる環境を準備中だ。本コースで成果を検証し、同様の環境を全校に整備していき、考えた。同校は野球部の強豪校でもあり、社会探究コースのうち16名が野球部だ。荒木校長はスポーツで集中力を発揮できる生徒が最先端のICT環境を活用して情報収集・分析力を鍛えるなど、どんな力を発揮するのか、楽しみである」と語った。

簡単な使い勝手が魅力

北広島町教育委員会(小学校9校、中学校4校)では本年4月より、65型の4Kディスプレイプラビアの検証を開始した。検証校として真っ先に手を挙げたのが、大朝小学校と大朝中学校だ。

大朝小学校

大朝小学校ではプラビアを、既存の図書室とPC室を1部屋にしたメディア室に設置して授業を行っている。

小学校6年生の社会科では「貴族の政治と暮らし」の単元に入ったばかりだ。授業者の小原義史教諭は、ユネスコの世界文化遺産に大阪



教科書掲載の予想図を拡大して、児童の発見を皆で共有。拡大しても鮮明に映る

府の仁徳天皇陵などを含む「百舌鳥・古市古墳群」が登録される見通しとなったことを伝えるニュース番組をiPadから提示。前時までの学習を振り返った。

次に、教科書に掲載されている、五重塔が建設されている当時の予想図をiPadで撮影してプラビアに拡大提示。古墳時代と比較して気づいたことをノートにメモさせた。グループで話し合わせた後、気がついたことを発表し合う。「指導者のような人がお付きの人はカラフル」「お姫様のような人がお付きの人と歩いている」「様々な道具で宮大工の方法で建築している」「馬に乗っている」などの発表ごとに、それに該当する予想図の部分を拡大して皆で共有。かなり小さい部分を拡大しても画像はにじまず鮮明に提示されている。「家が大きくなった」という発言の際には、古墳時代に大きな穴穴式住居の挿絵を拡大提示して、その違いを比較。なぜ生活がこのように変わっていったのかについて考えた。iPadで児童のノートを撮影してプラビアに掲示しても鉛筆で書いた文字がきれいに見える。

や拡大した写真も鮮明で、発見や意見の交流がしやすい。算数の授業では、図を使った説明がしやすくなった。体育では、動画で撮影した児童自身の動きを見せながら注意点を確認するなどいろいろな使い方で活用している。理科では、小腸の柔毛がくつきり見えて、子供は驚いていた。プラビアは移動も可能なので、校内研修でも活用していきたい。このような環境を活用できて大変うれしい」と語った。

大朝中学校

大朝中学校でプラビアを活用している村本飛鳥教諭は、「これまで使っていたテレビは画面の映り込みがあり、生徒は見える位置に移動しながら授業を進めていた。プラビアでは、どこに座っても生徒は「見えない」と言わなくなり、スムーズに授業を進行できる。中学生になると画面の大きさも必要。65型の大きさがある教室後方でも見やすい」という。現在Powerpointで作成した英単語フラッシュカードを、関連した映像などと併せて活用している。

様々な教材を1時間の中で併用したい場合もあるという。プラビアはHDMIケーブル4本の接続が可能で、ケーブルの抜き差しで画面提示を切り替えることができるので、その機能の活用にも挑戦したいと話した。

北広島町教育委員会

藤田一友指導主事は「新学習指導要領に向けて次年度は映り込みが少なく、拡大しても鮮明な提示環境整備を検討したい。プラビアは、iPadを接続すれば、撮影した写真や動画をすぐに提示できる簡単な使い勝手が魅力」と語った。